

**琵琶湖・淀川流域対策に係る研究会**  
**海ごみ発生源対策部会（第1回）の概要について**

- 1 開催日時：平成29年6月8日(木) 17:30～20:15
- 2 場 所：滋賀県庁北新館 5B 会議室
- 3 出席者：佐藤祐一委員、瀧健太郎委員、原田禎夫委員、堀孝弘委員
- 4 議 事：課題と解決に向けての調査、検討及び課題解決策

**<部会の調査、検討の進め方>**

- 課題として関西広域連合の流域から流入するごみが大半を占める大阪湾に注目し、底引網漁業被害など既に発生している生態系における問題に対して、量が多くごみのシンボリックなペットボトルやレジ袋の削減に向けて、デポジット制度やレジ袋有料化などの施策提案することを目標に調査、検討を進める。
- マイクロプラスチックの削減もシンボリックな課題として解決策を調査、検討するが、手法としては散在ごみの上位であるペットボトル、レジ袋の削減をめざす。
- 淀川流域をモデルに流域単位のごみ対策の負担のあり方について施策提案し、その後、必要に応じて他流域の調査を実施する。
- 平成29年度は、ペットボトル、レジ袋等のごみの発生量について、ダムや堰、下水道事務所、河川管理者のごみ補足量の既存データの収集を行い淀川流域全体のごみの収支図を作成するとともに、デポジット制を導入した場合のB/C（費用・便益）の構造を明らかにする作業を行う。
- ペットボトル使用抑制は諸外国ではすでに取り組みが始まっている。関西がペットボトルのデポジット制度を導入するとすれば、日本で最初に広域的にシンボリックな行事に合わせて導入された制度として注目を集められる。